

4 指導法改善のポイント

国語【小学校第6学年】

正答の状況

年度		令和元年度	平成30年度	
種別		国語	国語A	国語B
平均 正答数	県	9.2問/14問	8.4問/12問	4.2問/8問
	全国	8.9問/14問	8.5問/12問	4.4問/8問
平均 正答率	県	66%	70%	53%
	全国	63.8%	70.7%	54.7%

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

- 成果1** 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
- 成果2** 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめること
- 課題1** 情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること
- 課題2** 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと

成果が見られた問題の概要

○成果1 設問番号 1 四(1)ア, ウ

【設問の概要】
公衆電話について調べた【報告する文章】の中に使われている語について漢字を使って、正しく書き直すことができるか。(「対象」, 「関心」)

【平均正答率 (%)】				
1 四(1)	本県	全国	差	自校
ア 対象	54	42	+12	
ウ 関心	60	36	+24	

【学習指導要領における領域・内容】

〔第5学年及び第6学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1)ウ 文字に関する事項 (ア)

本問題に関する指導事項の内容は、低学年の平仮名や片仮名を読んだり書いたりすることに始まり、高学年の漢字を日常的に文や文章の中で適切に使うことである。本県小学校においては、多くの先生方の熱意に支えられ、6年間継続した丁寧な指導が繰り返されている。本調査において、毎年度成果を挙げているが、本年度は特に顕著であった。出題された2問は同音異義語であり、文脈の中で、意味の違いを考えながら漢字を使用することが大切である。漢字のもつ意味を考えながら、正しく使用する習慣を今後とも育んでほしい。

※ 同一の問題「関心」について正答率を比較してみよう。

H30鹿児島学習定着度調査 1月実施	H31全国学力・学習状況調査 4月実施	差

○成果2 設問番号 3 三

【設問の概要】
インタビューを通して、働いている人への思いや考えに着目して心に残ったことを書くことができるか。

【平均正答率 (%)】				
3 三	本県	全国	差	自校
	75	68	+7	

【学習指導要領における領域・内容】

〔第5学年及び第6学年〕 A 話すこと・聞くこと エ

本問題では、必要な情報を得るために、話し手の意図を捉えながら聞いたり、自分の考えをまとめたりすることが問われている。目的を明確にして情報を関連付けながら聞き、自分の考えをまとめる言語活動は、他教科等の学習などにも生かされるため、今後も重視したい。

